

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都市長		平成 25年 7月 1日					
報告者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)		報告者の氏名 (法人にあっては、名称及び代表者名)					
京都市下京区烏丸通塩小路下る東塩小路町901番地		株式会社ジェイアール西日本ホテル開発 代表取締役社長 土師 総一 電話 075-342-5510					
主たる業種	ホテル業	細分類番号	7	5	1	1	
事業者の区分	京都市地球温暖化対策条例第2条第1項第6号	<input checked="" type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ又はウ <input type="checkbox"/> エ					
計画期間	平成23年4月から平成26年3月まで						
基本方針	平成22年度を基準に平成23年度から平成25年度の間で温室効果ガス排出量を3%削減する						
計画を推進するための体制	従前から取り組んでいるKES活動において進捗管理を行う						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	9,462.4 トン	8,954.2 トン	9,001.5 トン		-5.1 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	9,462.4 トン	8,954.2 トン	9,001.5 トン		-5.1 パーセント	
実績に対する自己評価	収入の回復(対前年101.2%)及び客数の増加(100.3%)により、対前年比較に於いては、排出量が増加。しかし、クールビズ推奨による室温管理やLED化の推進などにより基準年度は下回る数値となる。						
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率
	ホテル	事業活動に伴う排出の量 (売上高÷億円)	85.72	82.45	81.93		-4.12 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ( )					パーセント
実績に対する自己評価	売上げ単位による排出量については、対前年比較に於いて使用量が減少。クールビズ推奨による室温管理やLED化の推進等が功を奏したと考える。						
重点的に実施する取組の実施状況	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考		
	23.0 パーセント	61.0 パーセント	69.0 パーセント				
具体的な取組及び措置の内容	(23)年度	設備管理標準の制定、空調設定温度見直し、照明点灯時間の変更を実施					
	(24)年度	空調温度設定、照明点灯時間の管理徹底					
	(25)年度						
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	社員に対し通勤については、原則公共交通機関の利用を促しています					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	公共交通機関の利用により、安全且つ環境に対する配慮も伴うと考えています					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	0.0 トン	0.0 トン				
	地域産木材の利用によるもの	0.0 トン	0.0 トン				
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	0.0 トン	0.0 トン				
	グリーン電力証書等の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン				
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン				
合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	京都駅前清掃に対する積極的な参加などにより環境への取り組み普及に努めています						
特記事項							

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「細分類番号」とは、統計法第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。  
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の三年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。  
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。